

深川の寺巡り
白河から三好・平野・門前仲町へ

深川江戸資料館へ何度か通う内に、近くにお寺が沢山ある街だということを知った。5月の半ばを過ぎてふと思
い立ち、落語会の鑑賞のついでにぶらついて見ることにした。

清澄白河駅から門前仲町駅まで、大通りを最短ルートで歩けば1.2Km程度の距離。地図を見ながらひとつ
ひとつの路地を曲がっては寺を覗いて、ある所ではまた戻り、ある所では同じルートを二度回ったりしながら楽し
んでみたら、三倍ほどの道のりを歩くことになった。

◆霊巖寺:れいがんじ(江東区白河1-3-32)

<https://yahoo.jp/OmS5FZ>

正式名称は浄土宗道本山東海院霊巖寺、深川江戸資料館の隣にある大きなお寺で、関東十八檀林の13
番目に位置する。寺の敷地内に深川江戸資料館ができたという表現の方が正しいかもしれない。

寛永元年(1624年)霊巖上人の開山により霊巖島(現在の新川)に創建された。明暦3年(1657年)に大
火で焼失したが、江戸の災害対策としての新しい街作りの中で万治元年(1658年)に現在の地に再建され
た。本尊は阿弥陀如来像だが、銅造りの地藏菩薩座像は江戸六地藏の五番目に数えられた。本堂の西奥に、
寛政の改革で名を残した老中松平定信の墓所があるが、門扉が施錠されていて中には入れなかった。

白河藩(福島県)の藩主であった松平定信の墓所があることから、昭和7年に東大工町・霊岸町・扇橋一丁
目・元加賀町が合併して「白河町」の名が生まれた。

消えてしまった「元加賀町」の名は、現在の白河4丁目(木場公園・東京都現代美術館の北側)に小学校・幼
稚園・マンションなどの名前等として残っている。

寺の北側の清洲橋通りには、4階建ての集合住宅「清洲寮」があり、大通りと隔絶されているせいか、静寂さ
を確保している。清洲寮は昭和8年にできた民間の集合住宅で、当時ヨーロッパで見て来た最新の集合住
宅を参考にして設計されたものらしい。

◆成等院:じょうとういん(江東区三好1-6-13)

https://yahoo.jp/R_Uuyk

寛永元年(1624年)に霊巖寺が創建された時に、塔頭寺院として創建。明暦の大火後に霊巖寺が移転再
建された時に一緒に再建されたが、第二次世界大戦で焼失し、昭和33年に再び建てられた。

この地の「三好町」という町名は、元禄14年(1701年)に中川屋佐兵衛・堺屋次右衛門・斎藤屋伊左衛門
の三人が土地の払い下げを受けた元加賀新田の茅野原を「深川三好町」として起立させたことが始まりで、
三人が仲良く話を進めたことから「三好」と名付けたとする説が有力らしい。

◆正覚院:しょうがくいん(江東区三好1-7-7)

<https://yahoo.jp/rpbS0S>

寛永6年(1629年)に霊巖寺の塔頭寺院として創建。明暦の大火後に霊巖寺が移転再建された時に一緒
に再建された。関東大震災の後の区画整理で、周囲にあった開善院・光明院・正覚院が合併して現在の正
覚院となった。

◆蔡華院:さいけいん(江東区三好1-7-11)

<https://yahoo.jp/3T6Jd09>

浄土宗の寺だが、開基・開山の時期は不詳とされている。寺院号の許可を受けたのは明治11年とのことな
ので、新しい寺のようだ。現代アートの芸術家の家かと思うようなデザインの、鉄筋コンクリートのモダンなビル
で、遠目には寺には見えなかった。

◆長専院不動寺:ちょうせんいん(江東区三好1-6-3)

<https://yahoo.jp/9XIzIi>

徳川四天王の一人と言われた榊原康政の孫である榊原忠次が開基し、霊巖島に創建された浄土宗の寺。

万治元年(1658年)に霊巖寺とともにこの地に移転再建された。

昭和3年(1928年)に不動寺を合併した。不動寺は出世不動尊として有名だった。

門柱には、左に「不動寺」、右に「長専院」と書いてあり、隣の敷地にある出世不動尊の方が風格があって立
派な感じがした。

- ◆**圓通寺**:えんつうじ(江東区三好1-3-3) https://yahoo.jp/PaY_90
万治元年(1658年)の靈巖寺再建の時に学寮(道本山下桜谷圓通窟)として創建された。
後に明治になって寺号を許され、圓通寺となった。
- ◆**勢至院**:せいしんいん(江東区三好1-4-5) <https://yahoo.jp/C4vDtf>
靈巖上人の弟である本誉太巖上人が開山・創建した。本尊の勢至菩薩像は靈巖上人の作と言われており、
靈巖寺の勢至堂に安置されていたが、明暦の大火で寺が焼失した際に本誉太巖上人が辛うじて救出し、難
を逃れ再建の地で、勢至院本尊として安置された。
江戸時代中期に活躍した水戸生まれの画家櫻井雪館とその娘雪保の墓がある。
- ◆**済生院雙樹寺**:さいしょういんそうじゅじ(江東区三好1-5-12) <https://yahoo.jp/OFjvX>
靈巖寺が再建された時に観音堂として創建されたのが始まりで、安永4年(1775年)に靈巖寺の塔頭別院
済生院として創建された。関東大震災及び第二次大戦で大きな被害を受け、昭和29年(1954年)に隣の
雙樹寺と合併して済生院雙樹寺となった。
- ◆**松林院**:しょうりんいん(江東区三好1-4-14) <https://yahoo.jp/OHUDIs>
檀蓮社来誉上人により寛永年間に開かれた学寮。のちに明海寮ほか三寮を合併し、明治2年(1869年)に
寺号が許された。昭和4年(1929年)に華巖院を合併した。この界限ではコンクリートのビルになっている
寺が多いが、松林院は木のおいにする「お寺さん」と呼びたくなるような造りになっている。
- ◆**攝心院**:せっしんいん(江東区三好2-11-14) <https://yahoo.jp/lv0YH8>
靈巖寺が再建された時に学寮として建てられた。明治時代に寺号が許されて、光明山攝心院となった。
民家に挟まれて窮屈そうに建っているが、松林院同様に寺らしい風情の建物である。
- ◆**潮江院**:ちようこういん(江東区三好2-10-4) <https://yahoo.jp/krnly9>
寛永6年、照誉光心により創建された。万治元年(1658年)に靈巖寺とともに現在地に移転。
明治12年(1879年)に潮江庵・見松庵・清澄庵の三庵を合併して寺号を得て見松山潮江院となった。
敷地に一步踏み入ると左側の植え込みの中に延命地藏尊が立っている。
- ◆**法性寺**:ほっしょうじ(江東区三好1-2-8) <https://yahoo.jp/DB0wE3>
寛永元年(1624年)、靈巖島に靈巖寺が創建されたときに学寮(法性寮)としてできたのが始まりで、靈巖
寺の移転に伴ってこの地に移ってきた。明治11年に寺号を許されて東海山法性寺となった。
関東大震災後に安禅寺を合併した。
- ◆**浄心寺**:じょうしんじ(江東区平野2-4-25) <https://yahoo.jp/TO3Pcw>
正式名称は、日蓮宗法苑山浄心寺。僧日義が深川におすんだ草庵が起源と言われている。
付近を通りがかった三沢局(徳川家綱の乳母)が日義上人に師事するようになり縁が繋がった。三沢局は
明暦元年(1655年)に病を理由に乳母の仕事を辞したが、日義上人に新寺建立を託して落命。ところが、こ
れを受けて深川の地に永住することを決意した日義上人も病の床に就き、弟子の日通上人に託して亡くな
った。
日通は三沢局を開基、日義上人を開山として万治元年(1658年)に浄心寺を興した。徳川家綱は乳母の志
に感銘を受けて寺の建立を許した上、寺領100石を与え5万両の寄進も行なった。明暦の大火で被災した
靈巖寺が現在の地で再興した年である。
一乗院・唱行院・圓隆院・善応院・本立院・玉泉院・宣明院・圓珠院の八つの塔頭寺院を持つ。現在は道路
を挟んで建つものもあるが、昔は大きな敷地の中だったのかもしれない。
昭和20年(1945年)の東京大空襲で深川一帯は焦土と化した。戦後の復興の過程で、東京市の深川区と
城東区を合わせて江東区が誕生した時には、ここに区役所があった。
さらに本堂の南側には和合稻荷という神社も建っている。三沢局が大奥入りした際に大奥女中の意志和合
を願って伊勢神宮から豊受大明神を奉祀していたことから家綱は、浄心寺敷地内に和合稻荷神社を建てた。
その後将軍家から10万石の格式を許され、江戸十祖師のひとつに数えられる寺となった。
浄心寺の隣地には広大な墓地が広がり、墓地の中は細長く区画区分されており、各区画に八つの塔頭寺院

の寺名が付されており、さながら大規模住宅団地を見るような光景に圧倒された。

浄土宗に強く肩入れしていた徳川幕府の元で、日蓮宗の浄心寺がそれなりの地位を保つことができたのは、四代将軍家綱とその乳母三沢局の関係があったことによるものなのだろうか。

関東大震災の被害者を供養する慰霊碑が、敷地の一角に建っていた。

◆妙龍山善応院: ぜんのういん (江東区平野1-14-1) <https://yahoo.jp/Ro3wiK>

前記のように、日蓮宗浄心寺の塔頭寺院のひとつで、貞享2年(1685年)に秀閑院日栄上人の開山・創建。鉄筋コンクリート造りの個人の邸宅を思わせるような建物で、地図にある寺の記号と寺名の表記がなければ気がつかなかった。

◆一乗院: いちじょういん (江東区三好1-3-18) <https://yahoo.jp/wuXy69T>

日蓮宗浄心寺の塔頭寺院のひとつで、仙能院日善大徳の開山で寛文10年(1670年)創建。

◆唱行院: しょうぎょういん (江東区三好1-3-19) <https://yahoo.jp/m7rUeM>

元禄8年(1659年)大教院日教大徳の開山で京橋に創建された日蓮宗の寺。江戸時代末期にこの地に移転。

◆妙栄山本立院: ほんりゅういん (江東区平野1-14-7) <https://yahoo.jp/IHjxN6>

本立院日覚の開山で、貞享4年(1687年)に創建された。間宮林蔵の墓がある。

◆圓珠院大黒天: えんじゅういん (江東区平野1-13-6) <https://yahoo.jp/llkiHi>

日蓮宗浄心寺の塔頭寺院のひとつで、享保年間の創建と言われている。創建当時は浄心寺の裏手にあったが、関東大震災後の区画整理により現在の位置(浄心寺の西側)に出てきた。

大黒堂の大黒天は、深川七福神のひとつに数えられている。

◆宣明院: せんみょういん (江東区平野2-3-4) https://yahoo.jp/z4E_ko

日蓮宗浄心寺の塔頭寺院のひとつ。宣明院日善の開山で、延享2年(1745年)に創建された。この寺も善応院と同じように豪華でモダンな個人の邸宅を思わせるような造りで、危なく見落とすところだった。

◆平野町の成り立ち

江戸時代にこの地の名主を務めた平野甚四郎は、江戸時代初期に河内国から浅草に移住して、当初は飴屋をのちに酒造を渡世とした。元禄11年(1698年)に深川の開発が始まると、開発の普請奉行である代官伊奈半左衛門と深津八郎右衛門に仕えた。元禄15年(1702年)に開発地の起立に尽力した功により周辺22カ町の名主役を命ぜられ、自身が居住する町を平野町とした。

◆木更木橋(仙台堀) <https://yahoo.jp/EGdcyp>

白河から南に向かって歩を進めると、三好町は浄土宗靈巖寺の町、平野町に入ると日蓮宗浄心寺の色合いが混じった町になる。そして仙台堀に架かる木更木橋を渡ると浄土宗のほかに真言宗・曹洞宗・臨済宗などの寺も現れる。その先へ行くと深川不動、富岡八幡があり、門前仲町になる。

仙台藩の蔵があったことが仙台堀という名の由来らしいが、ここに架かる木更木橋という橋の名前の由来が気になり調べて見たがわからなかった。

江戸時代の古地図と現代の地図とを並べてみると、仙台堀は木更木橋の西側(下流)の、現在の清澄通りの海辺橋の所までしかなく、まさに「仙台堀」だった。現在は貫通した水路となっていて「仙台堀川」という河川名がついている。

旧仙台堀の終端を過ぎると富岡橋までの間にお寺がずらりと並んでいたが、現在は間にビルなどが並んで寺は飛び飛びになってしまっている。

◆正覚寺: しょうがくじ (江東区深川2-22-5) <https://yahoo.jp/JNQJ63>

仙台堀を渡ると町の雰囲気の違いが感じられる。どことなく深川不動と富岡八幡の町のような空気を感じるから不思議だ。正覚寺は浄土宗の寺で、正式名称は、大音山響流院正覚寺。山号と院号の美しさに魅了される寺だが、やはり鉄筋コンクリート造りで6階建ての現代風のお寺で少々残念。寛永6年の創建。

◆増林寺:ぞうりんじ(江東区深川2-19-13) <https://yahoo.jp/zAIpne>

正式名称は、曹洞宗海照山増林寺。本郷元町の高林寺の白州全龍和尚により寛永5年(1628年)に開山・創建された。山号が示すように、江戸時代にはこの先僅かな距離の所に東京湾が広がっていた。増林寺の本寺である高林寺境内の湧き水を江戸城に献上したことから、「御茶ノ水」の名が誕生した。

●ついでのはなし

○清澄庭園

元禄時代の豪商紀伊国屋文左衛門の屋敷があった。享保年間には下総関宿藩の藩主久世大和守の下屋敷があった。明治11年(1878年)に、荒廃していた邸宅跡地を岩崎弥太郎が買い取り、三菱社員の慰安と商取引の接待の場として整備して「深川親睦園」とした。

関東大震災で建造物も焼失し、復興に際して東半分を東京市に公園用地として寄贈した。これが都営の公園としてのスタートになった。後年、残りの西半分も東京都が買い取り、現在の状態になった。

○東京市営清澄庭園店舗向住宅

清澄庭園の東側に、公園の外壁のような佇まいで2,3階建ての長屋風の集合住宅が一行に並んでいる。関東大震災後の復興事業で、東京市が昭和3年に作った鉄筋コンクリート造りの長屋風店舗付集合住宅。今は、ちょっと変わったお店や軽く口を楽しませるような食べ物屋などがいくつかあり目の保養になる。

●しめくり

本所・深川は火災や水害が度重なった土地だった。江戸時代にいくつかの大火や嵐を経験する中で、火災に強い街、水害の起きにくい街への変革が進められた。

道路の拡幅により火災時の延焼防止が考えられ、水路が切り拓かれたり、その水路が水運としても活用されたり、橋を架けて往来を容易にしたり様々な対策がとられた。

神社仏閣も天災で焼失したが、新しい土地に移って再興を果たしたものも数多くあった。

江戸時代の大規模な街作りが近代に受け継がれるはずだったが、大正時代に関東大震災が襲いかかってきた。ここでも復興の街作りが進められたのだが、それも第二次世界大戦の終盤で発生した東京大空襲で打ち砕かれた。天災と復興を何度か繰り返してできた街ともいうことができる。

通りを渡り路地を巡って、お寺さん巡りの散策をしながら、そんな歴史を肌で感じる事ができた。

以上

